

県西教育事務所だより

未来に向かって 高い志を持ち たくましく生きぬく 人づくり
「学校に元気を 先生方に自信と勇気とやる気を 子どもたちに夢と生きる力を」 平成29年7月10日発行（第4号）

教員の授業力向上を目指して

平成29年度学力向上推進プロジェクト事業に係る授業力ブラッシュアップ研修国語科、算数・数学科重点校第1回授業発表会が開催されました。重点校での取組を参考にして、自校の授業改善を進めていきましょう。

《重点校》下妻市立下妻中学校（算数・数学科）6月22日（木）

3年生の「平方根」の単元で、本時の目標を「平方根の加法、減法の計算を、帰納的な考え方を基にして文字を使った式の計算と同じように考えることができる。」と設定し、授業を行いました。【文部科学省 国立教育政策研究所教育課程研究センター 佐藤寿仁 調査官のご指導より】

- ① 子どもが学びの主体者となるために
 - ・自分で判断したり、決定したりする場面があること。
 - ・その判断や決定についての根拠や裏付けをみんなで検討したり改善したりする場面があること。
 - ・学びをすすめる際には、集団と個の学習活動を行き来することが望ましいこと。
- ② 評価場面や方法を工夫するために
 - ・授業者の意図を含めて授業構成し、振り返る場面を設定すること。
 - ・単元で身に付けさせたい力を、具体的な評価問題で検討すること。



ホワイトボードを使って、
班の意見を伝える（3年生）

《重点校》結城市立結城小学校（国語科）6月28日（水）

2年生では「ふろしきは、どんなぬの」を題材として、本時の目標を「二つの文章の説明の仕方の違いを比べることを通して、内容の大体を読むことができる。」と設定し、授業を行いました。また、3年生では、「自然のかくし絵」を題材として、本時の目標を「かくし絵Q&Aを作ることを通して、中心となる語や文をとらえて文章を読み事ができる。」と設定し、授業を行いました。【義務教育課 大越茂 指導主事のご指導より】

- ① 交流をする前に、交流の目的を明確にすること。
- ② モデル文を提示するときには、どの部分がモデルなのかがわかるように具体的に示すこと。
- ③ わかりやすい文章とはどのような文章なのかを児童が具体的なイメージをもてるようにすること。



ペア活動で自分の書いた文章を見直す（2年生）

《重点校》常総市立岡田小学校（算数科）7月4日（火）

1年生では「のこりはいくつ ちがいはいくつ」の単元で、本時の目標を「示された場面を適切に読み取り、式に表して計算することができる。」と設定し、授業を行いました。また、6年生では「円の面積」の単元で、本時の目標を「求積公式を利用し、図と式を関連付け、3倍の面積の図形をつくることことができる。」と設定し、授業を行いました。【義務教育課 小林栄司 指導主事のご指導より】

- ① 発表を聞いていた児童一人一人の理解が深まるように、発表後の時間を大切にすること。
- ② 根拠を問う発問「えっ?」「本当に?」「絶対?」など児童の思考をゆさぶることを大切にすること。
- ③ 図形の見方を広げるとともに、求積公式で計算をしてどうしてそうなるのか式と関連付けること。内容の定着を図る（6年生）



終末の1問テストで学習

授業発表会の指導案と報告書は、教育情報ネットワーク上に掲載されますので、校内研修等で御活用願います。

【生徒指導班より】

○ 生徒指導訪問から

一人一人が活躍し自己有用感を育む授業の工夫、清潔で潤いのある校内環境、特別な配慮を要する子供への適切な支援等により、ほとんどの児童生徒が安心して楽しい学校生活を送っている様子が見られました。また、事例研修では、「不登校」や「いじめ問題」への対応等について熱心なご協議をいただきました。今後も、生徒指導上の問題が発生した場合には、迅速かつ組織的な初期対応が展開されますよう、校内生徒指導体制の充実並びに関係諸機関との密接な連携をお願いいたします。

○ 不登校児童生徒数に対する援助指導状況調査報告から

5月末現在、欠席30日以上の不登校児童生徒は、小学校9名、中学校85名が報告されており、過去10年間で最も多かった昨年度と小中学校とも同数となっています。不登校の解消に向けて、夏季休業中も家庭訪問等による切れ目のない支援をお願いいたします。また、家庭の協力を得られないケースが増えてきています。特に、本人、保護者と全く会えないケースについては、市町教育委員会や児童相談所、警察等と連携し、定期的に居所確認をお願いいたします。

○ 夏季休業中の事件・事故の未然防止に向けて

学年集会や学級活動等において、平成29年7月7日付け西教第387号「夏季休業中における児童生徒の安全確保並びに教職員の服務規律の確保について（通知）」等を活用し、各学校の実態を踏まえた指導を確実にお願いいたします。

【生涯学習班より】

○ 就学前教育・家庭教育推進室から

・「家庭教育ブックひよこ」の活用：目標100% 保育園、幼稚園、認定子ども園にて実施（3歳～5歳の子を持つ保護者対象）家庭教育学級や研修会を開催する際にご相談をいただければ、県西教育事務所学校教育課生涯学習班がサポートいたします。

○ 生涯学習課から

・「いばらきの魅力再発見事業」（小学生対象）作文部門 目標65% 夏休みの課題として、ご指導願います。

○ H29県指定事業

- ・訪問型家庭教育支援事業 坂東市
- ・地域で支える家庭の教育力向上事業 下妻市・境町
- ・保幼小接続に関するモデル市町村事業 八千代町立川西小学校
- ・学校家庭地域連携支援事業 桜川市立猿田小学校
- ・家庭教育支援資料（ひよこ）の活用モデル事業 たちばな幼稚園（八千代町）
- ・地域と学校が連携した防災教育事業 坂東市立岩井第二小学校

【シリーズ「授業の中での人づくり」53】 ～小林友子教諭(坂東市立中川小学校)の実践～

坂東市立中川小学校では、目指す児童の姿を「心豊かでたくましく進んで学ぶ子」とし、日々の教育活動に取り組んでいます。小林 友子教諭は、算数の授業を中心に子どもたちが「なるほど」「できた」「わかった」と実感できるように「基礎的・基本的な知識や技能を身に付け、自分の考えを表現できる児童」の育成を目指し指導にあたっています。

【一手間一工夫のポイント】 ～『納得解』を実感できる授業とするためのポイント～

第1学年 算数科 「いくつといくつ」
目標：数字カードやブロックの操作を通して、10の合成・分解をすることができる。

① つかむ

・「10をつくるめいじんになろう」

・既習事項の確認・・・9を合成するための数の組み合わせ

10の合成・分解を習熟する時間の確保

② 見通す【個別】→【ペア】

・10がいくつといくつに分かれるか確認をする。

・ペアでブロックかくしゲームを繰り返し、10の合成・分解の練習を行う。

具体物を操作しながら発表する場を設定

③ 自力解決、学び合いの充実【グループ】

・グループになり、1～9の数字カードを使い神経衰弱ゲームを行う。

・カードが10になったとき、10はいくつといくつでできるかを確認する。

定着度に応じたグループづくり
TTによる支援、ヒントカードの活用

④ 練り上げ【個別】

・フラッシュカードを使い、定着度を確認し合う。

・段階ごとに解答時間を短くしていき、どれだけ早く答えられるかを自分で確かめる。

ゲーム活動を通して、数の合成・分解を確認し合い、互いに学び合う。

⑤ まとめ

・数字カードやブロック操作を通して、10の合成・分解をすることができる。



【個別活動の確保】



【ペアでの活動】



【グループでの活動】



【TTによる支援】



【ヒントカードの活用】



【フラッシュカードでの確認】

【小林教諭から】

一斉、個別、ペア、グループなどの学習形態を変えたり、ゲーム内容を工夫した数学的活動を取り入れたりすることにより、児童たちは、10の構成の理解を深めることができました。この後のたし算、ひき算の学習に抵抗なく取り組めるようにつなげていきたいと思えます。

また、ブロックやおはじきなどの具体物を操作しながら発表する場を設けることにより、数の合成・分解を確認し合い、互いに学び合うことができました。グループ内で自分の考えを友達や教師に自分の言葉で伝えることができる児童が増えました。これからも、児童たちが「なるほど」「できた」「わかった」と実感できる授業づくりに取り組んでいきたいと考えています。

【人事課からのお知らせ】

〈第1回管理職研修会から〉

6月20日(火)に、県西生涯学習センターにおいて、県西管内管理職研修会を開催しました。今回は、「教職員の勤務時間の適正管理」と「教職員一人一人の自己目標達成に向けての管理職の関わり」の二つのテーマについて、グループに分かれての協議等を行いました。各グループから出された「勤務時間の適正管理」に向けた提言をいくつか紹介します。「一人一人が輝く活力のある学校づくり」のために、提言の実践化に向けて、取り組んでいきましょう。

【勤務時間の適正管理】に向けた提言から

- ・学校組織の構造改革・意識改革
- ・業務の効率化、分かり合える、助け合える職場づくり
- ・ムダを減らす、できることから
- ・協働による組織力・チーム力の向上
- ・スクラム組んで意識改革、働き方改革
- ・自己管理の意識化と早め早めの連絡調整

〈学校事故の未然防止に向けて〉

【服務規律の徹底】

□特に、学期末における成績処理に伴う個人情報の管理

【施設・設備の安全管理の徹底】

□遊具、体育用具、施設・設備等の安全点検 □各施設等の施錠

【幼児児童生徒の安全確保の徹底】

□感染症、熱中症の防止 □幼児児童生徒一人一人の安全確保(登下校、学校生活)

